

ID ^{注1)}	241106	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	231107
報告書名称 / 調査名称	令和5年度白神山地二ホンジカ対策植生ルートセンサス調査							発行年月/報告年月	
								2024年 3月	
								資料形式 ^{注2)}	報告書
調査機関	東北地方環境事務所			委託機関	株式会社 地域環境計画				
調査開始年	2020年 9月	調査期間	2023年 9月 ~	2023年 10月					
調査頻度 ^{注2)}	毎年		調査時期 ^{注2)}	秋					
モニタリング計画	2022年7月 改訂	区分 ^{注2)}	ⅡB	大区分 ^{注2)}	2	小区分 ^{注2)}	(3)		
調査箇所・範囲 ^{注3)}			調査手法						
☒ 核心地域 ☒ 緩衝地域 ☒ 周辺地域 ☐ GPS等の位置データあり			<p>《これまで実施した調査項目及び調査方法》</p> <ul style="list-style-type: none">・ライトセンサス（2016～2018年）・ボイストラップ調査（2018年～）・越冬適地解析（2019年）・ルートセンサス調査（2020年～）・スポットセンサス調査（2020～2021年）・広域食痕調査（2022年～） <p>《2023年の実施内容》</p> <p>【ルートセンサス調査】</p> <ul style="list-style-type: none">●令和4年度実施区間のうち、林道閉鎖によりアプローチできなくなった追良瀬川の2区間を除外した8区間について、ルートセンサスを実施した。●なお令和5年度7月の大雨の影響により【2-2横倉沢】は岩場のアクセス困難のため、【3-1笹内川】は土砂の流入や河岸の浸食のため、調査区画を変更して調査を実施した。 <p>※この他に二ホンジカ対策として以下の調査を実施した。</p> <p>【ボイストラップ調査】（業務委託）※機材回収は環境省職員実行</p> <p>【広域食痕調査】（業務委託）</p>						
			※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。						
結果概要（スペースに収まるように入力してください）									
<p>【食害の程度】</p> <p>多くの区間では食害頻度が1%未満で食害強度も1であったが、一部区間では食害頻度が1～10%、食害強度が2となっていた（図1）。</p>			<p>【食害頻度】</p> <ul style="list-style-type: none">・1%未満・1～10%・10～25%・25～50%・50%以上		<p>【食害強度】</p> <ol style="list-style-type: none">1:ごく僅かな食害2:大半の株は、成長や繁殖に支障をきたさない程度の軽度の食害3:一部の株に強度の食害や矮性化がみられるが、群落レベルの衰退はない。4:一部では群落レベルで、強度の食害や矮性化が生じている。5:多くの群落が強度の食害を受けており、群落の消失が危惧される。				
シカ類の食痕(ミヤマライカサ)			シカ類の食痕(ツリフネソウ)		シカ類の食痕(キツリフネ)				
<p>東北地方環境事務所西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田6-1-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635</p> <p>《原本（データ）の帰属について》</p>									

【食害程度の経年比較】

食害株数、頻度及び強度について、今年度実施した8区間を対象に令和2年度から令和4年度の調査結果との比較を行った（表1,図1）。

《食害株数》

8区間全体では、令和2年度から令和3年度で大きく増加したものの、令和4年度に減少し、令和5年度はさらに減少している。

令和5年7月に豪雨が記録され、【3-1・3-2笹内川】は植生の流出や土砂の堆積が広く確認された。一方で、【1-1・1-2大滝又沢】【4-2粕毛川源頭】は令和4年度と比較して増加傾向にあった。【1-1・1-2大滝又沢】は豪雨による植生の流出がわずかであり、【4-2粕毛川源頭】は調査区画がスギ植林地のため、他区間のような植生の流出の影響は確認されなかった。

《食害頻度》

いずれの年も10%未満と評価されており、現状ではシカ等による利用の程度は低いといえる。

【3-1笹内川】は、食痕株数は令和4年度よりも少ないものの、土砂の流入による植生の減少の影響から、相対的に食害頻度が高まったため、令和5年度は1～10%未満となった。【3-2笹内川】では令和4年度まで3年連続で食害頻度が1～10%未満となっていたものの、令和5年度調査では1%未満となった。【3-2笹内川】についても豪雨の影響は大きく、食害の増減を反映したものであるかは不明である。

《食害強度》

令和2年度、3年度に食害強度「3」の区画が確認されたものの、豪雨の影響があった令和4年度、5年度については、食害強度「2」と判定された2区画と1区画を除き、残りの区画の食害強度は「1」となっており、ごく軽微な食害となっている。豪雨の影響により、一時的にカモシカ又はニホンジカの採食の程度が減少している可能性があり、今後注意する。

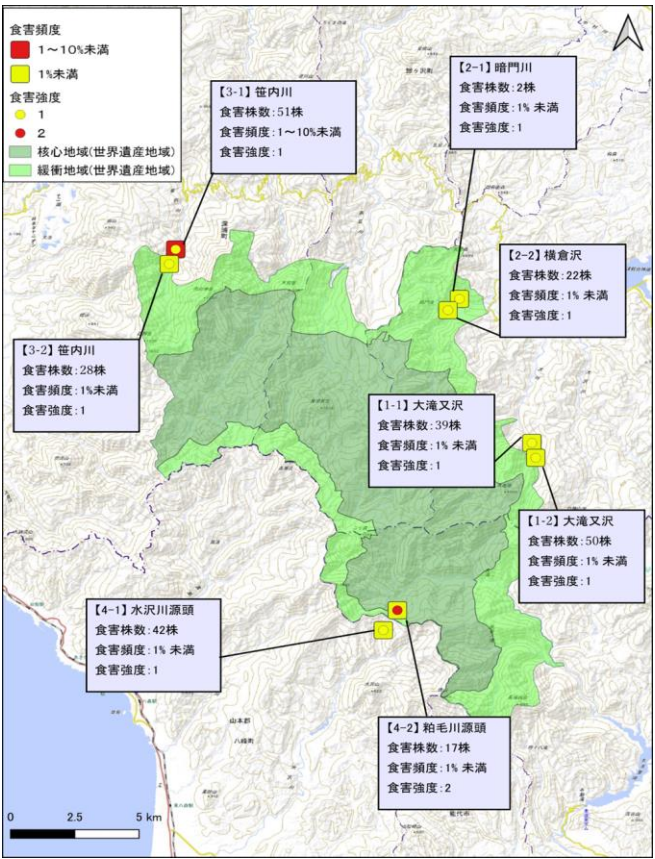


図1 ルートセンサスの位置及び食害の程度

【不嗜好性指標種について】

白神山地不嗜好性指標種の一覧と令和4年度、5年度のルートセンサスにおける確認状況を表2に示す。令和4年度、5年度のルートセンサスでは、計9種の不嗜好性指標種を確認した。これらのうち食痕が確認されたシュウモンジシダについて、今年度調査で確認された1025株のうち、食痕は3株のみであり、確認株数に対してごく少数であったことから、嗜好性は低いことが示されている。

今後シカによる食害が拡大した場合に他の植物種に比べて減少しづらい、または、増加するといった異なる動態を示す可能性がある。指標種としての妥当性の検討も含めて、今後も記録を続けていく。

表1 食痕株数・頻度・強度の経年比較

県		青森県側								秋田県側	
河川・登山道名		大滝又沢		暗門川	横倉沢	追良瀬川		笹内川		水沢川源頭	粕毛川源頭
区間No		1-1	1-2	2-1	2-2	旧3-1	旧3-2	3-1	3-2	4-1	4-2
食害株数 (株)	R2	2	40	—	15	12	8	1	55	—	29
	R3	478	656	8	0	27	55	39	711	99	5
	R4	27	27	15	58	7	32	87	116	43	1
	R5	39	50	2	22	—	—	51	28	42	17
食害頻度 (%)	R2	～1	1～10	—	～1	～1	～1	～1	1～10	—	1～10
	R3	1～10	1～10	～1	～1	～1	～1	～1	1～10	1～10	～1
	R4	～1	～1	～1	～1	～1	1～10	～1	1～10	～1	～1
	R5	～1	～1	～1	～1	—	—	1～10	～1	～1	～1
食害強度	R2	1	3	—	1	1	1	1	3	—	2
	R3	2	2	1	1	1	1	1	3	2	1
	R4	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1
	R5	1	1	1	1	—	—	1	1	1	2

表2 白神山地不嗜好性指標種及び令和5年度ルートセンサスでの確認状況

No.	科名	種名	不嗜好性指標種		R4ルートセンサス結果		R5ルートセンサス結果	
			白神岳 山頂平地	区分なし (文献情報)	確認株数	食害株数	確認株数	食害株数
1	コバノイシカグマ	ワラビ		○				
2	ヒメシダ	ミソジダ		○			50	
3	オンダ	シラネワラビ		○	3000		500	
4	オンダ	シュウモンジシダ		○	617	7	1025	3
5	センリョウ	セトリシズカ		○				
6	センリョウ	フタリシズカ		○			43	
7	シュロソウ	コバイケイソウ	○					
8	ユリ	カタクリ		○				
9	イネ	ススキ		○	51		50	
10	イネ	コチヂミザサ		○	8※		24※	
11	キンボウゲ	ニンソウ		○				
12	ユズリハ	エゾユズリハ		○				
13	ミカン	ツルシキミ		○				
14	ミカン	サンショウ		○				
15	キョウチクトウ	イケマ		○			1	
16	シソ	クサギ		○			17	
17	シソ	ナギナタコウジュ		○			1	
18	クク	トウゲブキ	○					
19	ガマズミ	ニワトコ		○				
計	14科19種		2種	17種	4種	1種	9種	1種

※ケチヂミザサを確認。

備考

表3 食害のあった植物種の整理結果(R2～R5)

No.	科名	種名	ルート環境毎の食害株数				食害 株数 合計	R2	R3	R4	R5	採食 事例	高嗜好 性植物	不嗜好 性種
			河川	山腹 ブナ林	スギ植林	尾根								
1	ゼンマイ	ゼンマイ			7		7		●		●	●		
2	キシノオシダ	ヤマソテツ	3	13	56		72		●	●	●	●	●	
3	メシダ	ヤマスイワラビ	1				1		●			●		
4	コウヤワラビ	イヌガンソク	1				1			●		●		
5	オシダ	シノブカグマ			1		1				●	●		
6		リョウメンシダ	4				4			●		●		
7		オシダ	11				11	●	●	●	●	●	●	
8		ミヤマベニシダ	1				1		●			●	●	
9		サカゲイノデ	96				96		●	●	●	●		
10		ジュウモンジシダ	145				145	●	●	●	●	●		●
11	イテイ	ハイヌガヤ	1				1		●			●	●	
12	クスノキ	オオバクロモジ	1				1		●			●	●	
13	サトイモ	マムシグサ	1				1		●			●		●
14	イヌサフラン	ホウチャクソウ		7	51		58	●	●	●	●	●		
15	サルトリイバラ	タデシオデ		1			1	●				●		
16		シオデ		5			5		●		●	●		
17	ラン	クモクリソウ		7			7	●				●		
18	クサスギカズラ	ユキザサ		6			6	●				●		
19	イネ	チマキザサ		1		4	5	●				●		
20	キンボウゲ	サンリンソウ	1				1		●			●		
21		クサボタン	5				5		●			●		
22		キツネノボタン		1			1		●			●		●
23	マンサク	マルバマンサク	1				1		●			●		
24	カツラ	カツラ	8				8		●			●		●
25	ユキノシタ	トリアシショウマ	3		6		9	●	●		●	●	●	
26		ヤグルマソウ	11		5		16		●			●	●	
27		ダイモンジソウ	5				5		●			●		
28	バラ	ヤマブキショウマ	13		6		19	●	●		●	●		
29		オニシモツケ	106		1		107	●	●		●	●	●	
30	クワ	ヤマグワ	1				1		●			●		
31	イラクサ	アカソ	72				72	●	●	●	●	●		
32		ウワバミソウ	1099	110	10		1219	●	●	●	●	●	●	
33		ヤマトキホコリ	1				1	●				●		
34		ムカゴイラクサ	67				67		●	●	●	●		
35		ミヤマイラクサ	149				149	●	●	●	●	●	●	
36		アオミズ	18				18		●	●	●	●		
37	ウリ	アマチャヅル	17				17	●	●		●	●		
38	ブナ	ブナ	1				1		●			●		●
39	ニシキギ	コマユミ	6				6		●			●	●	
40		ニシキギ属の一種			1		1		●			●		
41	アブラナ	ワサビ	7				7			●		●		
42	ウルシ	ツタウルシ	1				1		●			●	●	
43	ムクロジ	ヤマモミジ			1		1		●			●		
44		イタヤカエデ			1		1		●			●		
45		アカイタヤ	1				1			●		●		
46	タデ	オオイタドリ	64				64	●	●	●	●	●	●	
47	ヒユ	イノコヅチ	3				3		●			●		
48	ミズキ	ウリノキ	2				2		●			●		
49		ミズキ	7				7		●			●		
50	アジサイ	ノリウツギ	4		3		7		●			●	●	
51		エゾアジサイ	39	16	16		71	●	●	●	●	●	●	
52	ツリフネソウ	キツリフネ	685				685	●	●	●	●	●	●	
53		ツリフネソウ	124				124	●	●	●	●	●	●	
54	マタタビ	マタタビ	3				3		●		●	●		
55	リョウブ	リョウブ		1			1	●				●	●	
56	キョウテクトウ	イケマ	1				1		●			●		●
57	モクセイ	アオダモ	1			1	2		●			●		
58	シソ	ジャコウソウ	6				6	●				●		
59		クロバナヒキオコシ	11				11		●		●	●		
60		シソ科の一種	1				1		●			●		
61	モチノキ	ヒメモチ		1			1	●				●		
62	キク	ノブキ	26				26		●			●	●	
63		オオヨモギ	8				8		●			●	●	
64		アザミ属の一種	12				12		●			●		
65		ヒヨドリバナ	1				1		●			●	●	
66		モミジガサ	12		3		15		●	●		●		
67		タマブキ	1				1		●			●		
68		コウモリソウ属の一種			1		1		●			●		
69		コウゾリナ	10				10		●			●		
70	ガマズミ	エゾニワトコ	13				13		●			●		
71		オオカメノキ	1	3	12	2	18	●	●			●	●	
72	スイカズラ	タニウツギ	5				5	●	●			●	●	
73	ウコギ	トチバニンジン		1							●	●		
74		ウド	5				5		●			●	●	
75		コシアブラ		3	1	3	7		●			●	●	
76	セリ	アマニュウ	2				2		●			●	●	
77		エゾノヨロイグサ		7			7	●				●	●	
78		エゾニュウ	90				90		●	●		●		
79		ミヤマセンキュウ			2		2		●			●		
80		ミツバ	2				2		●			●		
81		オオハナウド	2				2		●			●		
82		ウナノミツバ	4				4		●			●		
計		42科82種	63種 3003株	16種 183株	19種 184株	4種 10株	3379株	25種	67種	20種	25種	76種	26種	6種

【令和6年度実施状況】

令和5年年度実施区間と同様のコースで今年度のルートセンサス調査を実施した。
調査結果については 現在とりまとめ作業中である。